



志望校

選択科目の用紙を出してもらった。その中に志望大学を書く欄があったが、あれは志望している大学を受験するに際して、選択した科目に不都合がないかを確認するためのものである。例えば、Aくんが「理系」を選び、第一志望として「〇〇大学」を書いていたとする。そして、理科の選択が「物理4単位と生物4単位」だったりにした場合に、本当に〇〇大学が物理と生物を受験科目として指定しているのかどうかを一応確認したりするのに使うわけである。(ただし、あくまで科目選択は自己責任だから、後から「先生が見逃した…」と言われても責任は取らないので、気になる人はしっかり再確認を！)

で、例えば高校受験の際には、浪人はあまり考えられないし、受検生の母集団もある程度限られている(例えば、都立高校には東京都に住んでいる人しか通えない…)ということもあって、担任の先生と相談しながら、調査書の評定やその中学校の先輩方の実績、また模試の結果などを総合して、慎重に？出願先を決めたのではなかろうか。

ところが、大学受験の場合は大きく違う。基本的に、自分が受験したいと思う大学は、どこでも好きなようにチャレンジしてほしいというスタンスである。だから、都立トップであり、全国でもトップレベルにあると言っていい日比谷の場合、志望できない大学は(海外の大学も含めて)ないと言ってもいいのである。(もちろん、現実にはご家庭の経済的事情などを考慮する必要が生じてくるが…)

*

志望大学を記入する際、「自分ごときがこんな大学を受けてもいいのだろうか…」など

と余計な心配をしている人もいたが、まったくそんな心配はいらない。前の通信にも書いたが、卒業した学年では、1～2年生の時の定期考査の成績が300位代だった人が、現役で一橋と東工大に複数合格している。現役での東大合格者はいなかったが、一浪生の中には東大合格者も出てくるのである。これが今の日比谷の実力である。

今の段階では、部活が忙しかったり、目標がはっきりしなかったりして、やらなきゃとは思いつつも、「やった～！」と思えるほどの勉強はできていないという人がほとんどだろう。だから、ここ数回の模試の結果などを参考にして志望校を決定するなどということは、「あり得ない」といってもイイくらいなのである。むしろ、今の段階で「A判定」や「B判定」が出ている大学を志望校とするとしたら、それはちょっと欲がなさ過ぎるという印象である。

*

未だに「文学部は就職できない」という時代遅れのイメージを持っている人もいるようだが、それは「リケジョは結婚できない」というのと同レベルの偏見である。一方、「大学で就職が左右される」というのは、エントリーシートという方式がとられるようになったことと連動して、実態として「ある」というのが現実である。ということは、少しでも名が知れた大学に入学することは、結果としてさまざまな面で有利に働く可能性が高いということだ。そのことの意味を受け止めて、何か特別な事情や理由がないかぎり、高い目標を設定して努力すべきだろう。